

年号	西暦	主 要 事 項	参 考 事 項
白鳳 三			
持統 八			
大宝 元	七〇一	阿具比里より庸米貢進する（藤原宮木簡）	藤原京できる 大宝律令制定
和銅 三	七一〇	白沢八幡社、開祖正保により創建される（八幡社記）	平城京（奈良）に遷都
養老 二	七一八	尾張国正税帳に知多郡司が署名	
天平 六	七三四	このころ英比郷より調塩貢進する（平城木簡）	
一〇	七三八		
延暦 一三	七九四		平安京（京都）遷都
天長 七	八三〇	棕岡平泉寺創建される（寺伝）	
延喜 一二	九一二	矢口箭比神社、箭野正良により勧請される（箭比神社由緒書）	
一八	九一八	坂部八幡神社、相山里長により創建される（八幡神社史）	
延長 五	九二七	阿久比神社、官社として「延喜式」に記載される	「延喜式」完成
承平年間	九三一〜三八	知多郡五郷の中に英比郷あり（「和名抄」）	「和名抄」完成
天曆 元	九四七	卯之山最勝寺、仏堂に大場山宝幢大菩薩建立する（菩薩胎内裏書）	
二	九四八	高岡天満社、京都より勧請される（天満社由緒書）	
		坂部洞雲院創建される（寺伝）	
五	九五一	大古根八幡神社、菅原道清により新田村より勧請される（社伝）	

天曆 九	九五五	白沢北原天神創建される（社伝）	
天徳 二	九五八	植五郷社創建される（社伝）	
一一世紀 ～一二世紀			野間内海荘・枳豆志荘・堤田荘・大野荘が成立する 良忍上人、融通念仏を始める
永久 五	一一一七	このころ阿久比谷虫供養始まる 大古根蓮慶寺創建される（寺伝）	このころ知多半島で窠業が盛んになる
永治 元	一一四一		
康治 二	一一四三		
仁平 三	一一五三	棕岡平泉寺、阿弥陀如来できる（墨書）	
平治 元	一一五九	平重盛、矢口済乘院に善光寺仏を寄進する（善光寺如来略縁記）	
永暦 元	一一六〇	源義朝家臣、渋谷金王丸クツワを最勝寺に寄進する（寺伝）	源義朝、尾張国野間で長田忠致に討たれる
承安 二	一一七二	卯之山津嶋神社、津島牛頭天王社より勧請される（棟札）	
建久 元	一一九〇	源頼朝、野間墓参の帰途平泉寺に寄り円月坊と名づける（寺伝）	
三	一一九二		源頼朝、鎌倉幕府を開く
建暦 元	一二一一	萩大山祇神社（山神社）創建される（社伝）	
元仁 元	一二二四	英比郷地頭職惣領、賀貫三条局が養子能親に譲渡する（「斉民要術」裏文書）	
寛喜 二	一二三〇	英比郷内乙河村地頭職、雅宝に譲渡される（「斉民要術」裏文書）	
文暦 元	一二三四	卯之山最勝寺現在地に移築する（寺伝）	
寛元 三	一二四五	棕岡平泉寺、願主法印権大僧都能親により阿弥陀如来修理する（修理銘）	
文永 一	一二七四	棕岡平泉寺、本尊不動明王立像・毘沙門天立像修理する（修理銘）	
弘安 九	一二八六	新海淳英、柳審城を築く（英比麿公同族会）	
乾元 元	一三〇二	新海淳彰、大古根・乙川・亀崎をひらく（英比麿公同族会）	
建武 三	一三三六	板山熊野神社、紀伊熊野より勧請される（板山郷土史）	
建武年間	一三三四～三六	このころ、足利尊氏、英比郷を不断大般若経料として熱田社に寄進する（熱田社 祠官供僧等言上状）	足利尊氏、室町幕府（一三三八）を開く
観応 元	一三五〇	宮津光西寺創建される（光西寺縁起）	

貞治 三	一三六四	尾張国内神名帳に阿久比神社記載される	
至徳 二	一三八五	矢口済乗院創建される（済乗院縁起）	
明德 三	一三九二	如意寺（知多市）の大般若経に英比郷矢口極楽寺（済乗院）の奥書あり	
明德年間		英比郷、醍醐寺座主のもとに統轄される（醍醐寺文書）	
応永一五	一四〇八	矢口箭比神社、地藏山の地に移した	
二〇	一四一三	久松道定が阿古居（阿久比）に定住する（久松氏系図）	
永享 三	一四三一	阿久比東光寺創建される（寺伝）	
文安 四	一四四七	草木に龍光寺薬師堂建立される（社伝）	
	一四四八	敷政門院没し、英比郷が貞成親王に譲渡される（塩尻）	
康正 元	一四五五	草木八幡神社創建される（八幡神社文書）	
長祿 二	一四五八	英比郷、伏見宮家の手を離れる（塩尻）	
応仁 元	一四六七		応仁の乱 一色義直・義春、知多に攻め入り、大野荘領主の弟一色 義遠と戦い、義春死す
文明 二	一四七〇		水野貞守、緒川城築城・乾坤院を創建する
文明 七	一四七五	久松寺を洞雲院として再建し、曹洞宗となる（寺伝）	
明応 二	一四九三	大古根蓮知坊（後の蓮慶寺）、正了により天台宗から浄土真宗に改宗される（寺 伝）	
文亀 二	一五〇二	英比谷古来念仏供養講番できる	
		福住興昌寺創建される（寺伝）	
永正 三	一五〇三	白沢宝安寺創建される（寺伝）	
永正 五	一五〇八	棕岡雲谷寺創建される（寺伝）	
永正年間		卯之山弘誓院創建される（寺伝）	
天文 二	一五三三	横松神明社創建される（神明社由緒書）	このころ味噌の大量生産始まる
一	一五四二	草木正盛院創建される（寺伝）	
一三	一五四四		

天文一五	一五四六	坂部城主久松俊勝、佐治氏と和解する	
一六	一五四七	於大の方、坂部城主久松俊勝に再嫁する	
永禄元	一五五八	宮津谷性寺創建される（寺伝）	織田信長、今川義元を桶狭間に破る
	一五六〇	松平元康（徳川家康）、知里付の陣から坂部城を訪れ於大の方と対面する	
	一五六五	阿久比（稗之宮）に地藏寺創建される（寺伝）	
一〇	一五六七	里村紹巴、棕原という人の案内で阿久比を通り大野へ行く（富士見道記）	
天正四	一五七六	石山（大阪）合戦に光西寺・開行寺（東光寺）・蓮慶寺出兵する	
五	一五七七	佐久間信盛の手勢によって坂部城落城する	
		阿久比谷供養仏画・仏具、法難に遭い熱田に奪い去られる	
		佐久間の事実に対する告げ口により坂部城主久松信俊、大阪四天王寺で切腹する	
文禄二	一五九三	板山安楽寺創建される（寺伝）	
	一五九五	知多地方に大雨、英比川が各所で決壊し、田圃は満水稻を腐らす（宮津英比私史）	
慶長三	一五九八	植神明社本殿再建される（棟札）	
六	一六〇一	草木西八幡社創建される（社伝）	
	一六〇二	於大の方、家康を伏見城に訪ね、八月二十八日城内にて死去する	
八	一六〇三		
一二	一六〇七		
一三	一六〇八	伊奈備前守、阿久比各村を検地する	
一八	一六一三	宮津祐正庵を光西寺と改める（寺伝）	
元和三	一六一七	阿久比谷虫供養復活する	
七	一六二一	多賀神社新殿建立される（多賀神社由緒書）	
寛永一一	一六三四	桑名城主久松定行（於大の孫）侍従に任ぜられ、松山城主（一〇万石）となる	
一五	一六三八	板山弥陀堂（東雲寺）創建される（寺伝）	
慶安元	一六四八	横松村子新田縄入する	
明暦二	一六五六	萩村申新田縄入する	

明曆 四	一六五八	福住縣神社、氏神二ノ宮大明神として造営される（縣神社記録）	
万治 元	一六五八	角岡村（棕岡）の平泉寺に寺子屋開設する	
寛文 五	一六六五		尾張藩、造酒米高を改める 尾張藩、五人組制施行
九	一六六九	福住村・白沢村・草木村・坂部村・卯之山村・矢口村の酉新田縄入する	
一二	一六七二	稗之宮村山方新田縄入する	
寛文末年		高岡村子新田縄入する	
延宝 元	一六七三	阿久比町域の人口四四七五（寛文村々覚書）	
五	一六七七	阿久比谷虫供養仏画、熱田から帰る	
天和 三	一六八三	板山村免定初出（一八七一年間中一二二年）	
貞享 三	一六八六	植村村記録初出（一二五年間中一二五年）	
元禄 三	一六九〇	植地藏堂造営される	
六	一六九三	北原天神社造営遷宮される	
八	一六九五	宮津の南海淳武、白沢の北原天神に連歌千句を寄進する（白沢八幡社蔵）	
一〇	一六九七	高岡村免定初出（一七一年間中九九年）	
享保一二	一七二七	宮津村惣平家の酒造高は七〇七石	
一三	一七二八	東泉坊雨池、板山・福住の立合池として石浜村（東浦町石浜）にできる	
一四	一七二九	英比川決壊、岩滑村浜新田に潰地できる	
享保年間	一七一六ゝ三六	卯之山村・矢口村後酉新田縄入する	
元文 三	一七三八	横松村・板山村酉新田縄入する	
四	一七三九	萩法久院創建される（寺伝）	
寛保 二	一七四二	大洪水、英比川決壊し、下半田浸水する	
		宮津村免定初出（一三三年間中一一〇年）	
		横松村、阿久比谷虫供養に新規加入する（阿久比谷虫供養記）	

寛保 三	一七四三	宮津村・草木村・稗之宮村・矢口村、高岡村亥新田縄入する	
宝暦 三	一七五三	卯之山最勝寺、珍上山長泉寺を最勝寺と改名する	
一五	一七五五	横松村・植村亥新田縄入する	
一三	一七六三	落合垵新設に関して英比輪中一三か村協定をする	
宝暦年間	一七五一〜六四	植地藏寺創建される（寺伝）	
明和 四	一七六七	萩村、宮津村から分離独立する（棟札）	
八	一七七一	草木川決壊し、白沢村田一面に土砂流入する	
天明 二	一七八二		
三	一七八三		
寛政 元	一七八九	草木、中島に郷倉を建てる	
五	一七九三	大雨で英比川、宮津西森下へ決壊、死者四人・流失家屋二軒の被害あり	
一	一七九九	阿久比東光寺、大野村光明寺内の聞行寺を移し再建する	
文化 三	一八〇六	俳人竹内竹有（草木出身）「花鳥楽事」を著す	
八	一八一―	棕岡正保寺創建される（寺伝）	
九	一八一二	板山東雲寺創建される	
文政 五	一八二二	俳人竹内竹有「常のこと」を著す	
七	一八二四	阿久比町域の人口六八八九（尾張徇行記）	
天保 七	一八三六	岡戸半蔵、亮山和尚、武田安兵衛の三人で知多四国霊場を開く	
八	一八三七	暴風雨により英比川の堤防各所で決壊し、大きな被害を受ける	
一〇	一八三九	俳人平井大巢（草木出身）死去する	
弘化 二	一八四五	樺池西部新田開発について矢田村（常滑市）と紛糾する	
嘉永 元	一八四八	暴風雨により英比川の堤防東西に決壊し、大きな被害を受ける 宮津・白沢、異国船漂流のとき役人小休場所となる	
			尾張に大雨、東海道鳴海宿流失
			鳴海代官設置し、知多東浦七二村と愛知郡南部一三村な どを支配
			横須賀代官設置し、西浦の名和以南大泊まで七五村を支 配
			尾張藩の米切手を新札に切り替える
			春、米価一両に二斗八升となる

嘉永	二	一八四九	宮津庄屋に、異国船渡来のとき指圖書来る	
安政	三	一八五〇	横松清光寺創建される（寺伝）	
	四	一八五六	宮津、異国船渡来のとき矢梨村へ出張人足帳差し出す	
		一八五七	横松の俳人国水死去する	
	六	一八五九	横松清来寺創建される（寺伝）	知多地方にコレラ大流行
文久	三	一八六三	卯之山村竹内鎌三郎、藝州出陣のため鳴海陣屋知多郡人夫締方を命ぜられる	
元治	元	一八六四	宮津舟橋家に津嶋神社神札が降る	大政奉還
慶応	三	一八六七	大古根英比家に神札が降る（伝承）	
明治	二	一八六九	廃仏毀釈で阿久比谷虫供養が法難、仏画具を各字に分散する	版籍奉還
	四	一八七一	廃藩置県により知多群の全域が額田県に属する	
	五	一八七二	総整学校へのちの英比小▽洞雲院で開かれる	学制発布（八大学区）
			知多郡は額田県第一大区となり、知多支庁を横須賀（現東海市）に設置する	
			愛知県の管轄に移し、知多郡は愛知県第七大区となり区会所を横須賀（現東海市）に設置する	
	六	一八七三	開継学校へのちの東部小▽谷性寺で開かれる	
			友文学校、福住興昌寺で開かれる	
			彫琢学校へのちの草木小▽竹内伊右衛門宅で開かれる	
			隆親学校、蓮慶寺で開かれる	
			聡明学校へのちの南部小▽平泉寺で開かれる	
	九	一八七六	阿久比東光寺、本堂建立される	
	一	一八七八	阿久比谷一六か村合併して阿久比村となる	
一二	二	一八七九	第一回県会議員選挙で阿久比村植の端山忠左衛門が当選する 宮津学校（開継）・福住学校（友文）・坂部学校（総整）・草木学校（彫琢）・角岡学校（聡明）・大古根学校（隆親）に改名する	

明治一七	一八八四	阿久比村が分離して一二か村となる（横松村・萩村・宮津村・板山村・福住村・白沢村・草木村・卯坂村・阿久比村・棕岡村・矢高村・植大村） 知多郡酒造家九八人、知多郡豊醸組を結成する	国鉄武豊線（熱田―武豊） 開通する 大府駅が開業し、武豊線は大府・武豊間となる
一九	一八八六		
二〇	一八八七		
二二	一八八九	市制町村制施行により阿久比村・東阿久比村・上阿久比村となる	
二三	一八九〇	第一回衆議院選挙、第七区（知多郡）阿久比村植の端山忠左衛門が当選する	知多郡で陸海軍大演習を実施
二四	一八九一		濃尾地震発生
二七	一八九四		日清戦争始まる
三一	一八九八	英比川堤防大雨のため決壊し、放水口をめぐり阿久比村と半田乙川間で騒動発生、樋門改築の議起こる	
三三	一九〇〇	阿久比村と半田町、樋門改修をめぐり対立する	
三五	一九〇二	宮津郵便受取所（明治三十八年宮津郵便局）開設される	
三七	一九〇四		日露戦争始まる
三九	一九〇六	阿久比村・東阿久比村・上阿久比村の三村合併により阿久比村となる	
四〇	一九〇七	小学校令改正により阿久比第一・第二・第三尋常小学校となる	
大正三	一九一四	矢勝川後田樋管改修をめぐり阿久比村と半田町対立、郡長仲裁にのり出す 知多瓦斯株式会社によって阿久比に送電が開始される	第一次世界大戦始まる
四	一九一五	知多郡庁において阿久比村と半田町の水利問題を協議、水利協定を結ぶ	
五	一九一六	棕原八幡社と角岡八幡社が合併し村社八幡神社となる（棟札）	
七	一九一八	萩の「山ノ神」が大山祇神社と改称する	
九	一九二〇	県道名古屋・半田線が開通する	
		阿久比第四尋常小学校創立する	
一二	一九二三	第一回国勢調査（人口七七七六）	関東大震災発生
一四	一九二五	第二回国勢調査（人口 七七三一）	

大正一五	一九二六	前役場庁舎竣工する（大字阿久比字宮前）	
昭和四	一九二九	青年訓練所令により阿久比第一・第二・第三・第四青年訓練所を開設する	世界恐慌始まる
五	一九三〇	草木西八幡社、村社八幡神社（東八幡神社）に合祀される	
六	一九三一	第三回国勢調査（人口 八一五三）	
七	一九三二	知多電気鉄道第一期線（太田川―成岩間） 開通する	
一〇	一九三二	萩法久院、埼玉県より移籍し再建される	
	一九三五	第四回国勢調査（人口 八三七七）	
		青年訓練所を青年学校に改める	
一二	一九三七		日中戦争始まる
一四	一九三九		第二次世界大戦始まる
一五	一九四〇	第五回国勢調査（人口 八五九一）	日独伊三国軍事同盟締結
一六	一九四一	国民学校令により阿久比第一・第二・第三・第四国民学校に改める	
一九	一九四四	東南海地震が発生し、常滑線と三河線大きな被害を受ける	
二〇	一九四五	三河地震発生	広島・長崎に原爆投下される
二一	一九四六		第二次世界大戦終わる
二二	一九四七	阿久比村立阿久比中学校が棕岡字丸山に創設される	日本国憲法公布される
		第六回国勢調査（人口 一一〇四九）	農地改革
二三	一九四八	阿久比農業協同組合ができる	
二四	一九四九		
二五	一九五〇	第七回国勢調査（人口 一二〇六一）	湯川秀樹ノーベル物理学賞受賞する
二七	一九五二	町教育委員会設置する	朝鮮戦争始まる
二八	一九五三	町制施行で阿久比町となる	講和条約発効
三〇	一九五五	第八回国勢調査（人口 一二五八六）	NHKテレビ放送始まる

昭和三一	一九五六	阿久比町商工会発足する	
三二	一九五七	簡易水道、宮津・萩地区に竣工する	
三四	一九五九	任命制度の教育委員会発足する	
		伊勢湾台風襲来する	
三五	一九六〇	役場庁舎竣工する（大字卯坂字殿越）	
		第九回国勢調査（人口 一二九一八）	
		簡易水道、阿久比・棕岡・矢高・植大地区に竣工する	
三六	一九六一	愛知用水通水する	
		阿久比町商工会、県商工会に届け出する	
三八	一九六三	本町で初めて英比小学校鉄筋校舎に改築する	
		学校給食センター完成する	
三九	一九六四	町営プール、役場庁舎西に完成する	
		上水道、県営水道を導入する	
四〇	一九六五	第一〇回国勢調査（人口 一三七七五）	
		平泉寺の木造阿弥陀如来が愛知県文化財に指定される	
四三	一九六八	横断歩道橋、坂部駅西に完成する	
四四	一九六九	四駐在所を統合して半田警察署阿久比派出所発足する	
四五	一九七〇	第一一回国勢調査（人口 一八四九九）	
四六	一九七一	阿久比中学校、大字卯坂字半田ヶ峯へ新築移転する	
		知多半島道路全線開通する	
五〇	一九七五	第一二回国勢調査（人口 二〇八六七）	
五一	一九七六	台風一七号により町内各地で集中豪雨による被害を受ける	
五二	一九七七	中央公民館本館新築する	
		西尾知多線の立体交差開通する	
			カラーテレビ放送始まる
			東京オリンピック開催
			東海道新幹線開通
			名神高速道路開通
			東名高速道路開通

昭和五三	一九七八	農免道路（町道三〇八四号線）、西部地区に完成する	
五四	一九七九	県立阿久比高校開校する	
		菊づくり運動始まる	
五五	一九八〇	第一三回国勢調査（人口 二〇八八〇）	
		オアシス運動始まる	
		学校給食センター新築移転する	
五六	一九八一	ゴミゼロ運動始まる	
五七	一九八二	もちの木園、心身障害者小規模授産所として開所する	
五八	一九八三	町立図書館、坂部城址にできる	
		阿久比駅新設される	
		阿久比谷虫供養が県指定無形民俗文化財に指定される	
六〇	一九八五	第一四回国勢調査（人口 二三三四一）	
六三	一九八八	オアシスセンター完成する	
平成元	一九八九	オアシス大橋完成する	
二	一九九〇	第一五回国勢調査（人口 二三九三二）	
三	一九九一	もちの木園新築移転する	
五	一九九三	ふれあいの森、スポーツ・レクリエーション施設として完成する	
七	一九九五	名誉町民久松定武氏死去する	
		第一六回国勢調査（人口 二三八九〇）	
一〇	一九九八		阪神淡路大地震
一二	二〇〇〇	ほくぶ幼稚園新築移転	長野オリンピック
		第一七回国勢調査（人口 二四〇二八）	
一五	二〇〇三	阿久比スポーツ村オープン	愛・地球博（愛知万博）開催
一七	二〇〇五	愛・地球博フレンドシップ相手国ソロモン諸島アラン・ケマケザ首相一行来町	中部国際空港（セントレア）開港
		第一八回国勢調査（人口 二四五七七）	

平成一八	二〇〇六	阿久比交番、阿久比駅前に移転 名鉄棕岡駅廃止 名鉄阿久比駅、特急停車駅になる 第一九回国勢調査（人口 二五四六六） 循環バス試行運行開始 英比保育園開園、英保育園・北原保育園休園 蓮慶寺本堂、大門、土塀が国の登録有形文化財に登録 あぐいトリエンナーレ六〇中央公民館南館にて開催 循環バス「アグビー号」本格運行開始 阿久比中学校プール完成 新庁舎竣工式・内覧会 第二〇回国勢調査（人口 二七七四七） 多目的ホール完成・内覧会、記念行事 第一二回愛知県市町村対抗駅伝競走大会（町村の部）で優勝 町制65周年記念式典 第四〇回阿久比町みんなの菊花展・記念大会を開催 政府が全国に新型コロナウイルス「緊急事態宣言」を発出 新学校給食センター竣工式、愛称「AGUMOGU（あぐもぐ）」	二〇一八 二〇一七 二〇一六 二〇一五 二〇一四 二〇一三 二〇一二 二〇一一 二〇一〇 二〇〇八	令和元 二〇一九 二〇一八 二〇一七 二〇一六 二〇一五 二〇一四 二〇一三 二〇一二 二〇一一 二〇一〇 二〇〇八	平成一八
東日本大震災					
「注記」 中世以前の阿久比町域に関しては史実の有無とは関係なく、地元伝承や関係者の主張をそのまま記したものが多くあります。明らかに史実ではないと考えられるものも含まれていますので、その点に留意してご利用ください。					